

令和5年9月1日
農産園芸課
経営普及課

強い乾燥によるコメの品質低下を防ぐため、「コシヒカリ」の
速やかな収穫と丁寧な乾燥・調製を呼びかけています

8月30日から31日にかけて県内で異常高温と強い乾燥が観測され、また、9月6日頃にかけて最高気温 35℃以上の猛暑日となる見込みがあり、台風の接近程度によっては更なる高温も懸念されることから、成熟期の水稻「コシヒカリ」では玄米の割れが発生する危険性が高まっています。

玄米の品質低下を防止するため、別紙「異常高温・高飽差緊急情報 第2号」により、農業者へ対し、可能な限り速やかな収穫し、丁寧に乾燥・調製するよう呼びかけています。

○ 技術対策の内容

別紙「異常高温・高飽差緊急情報 第2号」のとおり

なお、上記対策は、以下の県ホームページでもご覧いただけます。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/nouen/r5inasaku.html>



<本件についての問い合わせ>

農産園芸課 参事(稲作振興担当) 白崎
(直通) 025-280-5810 (内線 2923)

経営普及課 参事(稲作技術統括) 土田
(直通) 025-280-5841 (内線 3072)

異常高温・高飽差緊急情報(第2号)

令和5年9月1日
新潟県農林水産部

8月30、31日に異常高温と強い乾燥が県内で観測されました。収穫直前の稲では、胴割粒発生の危険性が高まっています。

籾黄化率が80%以上のコシヒカリでは、できる限り速やかに収穫してください。

〔気象状況と見込み〕

- ◎ 8月30、31日に異常高温と強い乾燥が発生し、コシヒカリの胴割粒発生の危険水準 9 g/m^3 を超える日平均飽差^{注)} が県内で観測されました(次頁参照)。
- ◎ 9月6日頃にかけて最高気温 35°C 以上の猛暑日となる見込みがあり、台風の接近程度によっては、更なる高温も懸念されます。

注) 飽差は空気の乾燥程度を示す指標。数字が大きいほど乾燥程度が大きいことを示す。胴割粒が増加する日平均飽差の基準はコシヒカリ 9 g/m^3 以上

〔当面の管理対策〕

- ◎ 高温登熟年では、胴割粒が発生しやすく、さらに収穫直前、籾水分が22%未満の時期に強い乾燥に遭遇すると胴割粒が急増します。
- ◎ 籾を確認し、黄化率80%以上のコシヒカリでは、今回の強い乾燥に遭遇しており、胴割粒発生の危険性が高いので、できる限り速やかに収穫してください。
- ◎ 出穂期後積算気温が 800°C となった頃から県の飽差情報(次頁参照)を確認し、強い乾燥が観測された場合は、籾黄化率75~80%(出穂期後積算気温 900°C)をめやすとし、通常より早めに収穫を始め、刈遅れにならないよう注意してください。
- ◎ 収穫時の籾水分が低い場合は、日中の加温乾燥は避け、常温で通風乾燥を行いましょう。点火は夜間等に気温が下がってから、毎時乾燥速度が0.5%以下になるよう送風温度を低めに設定して丁寧に乾燥しましょう。
- ◎ 乾燥機に2段乾燥機能や休止乾燥機能がある場合はそれを活用しましょう。

暑い日が続きますので、熱中症と農作業事故に注意しましょう。

参考資料

県内アメダス観測地点(湿度を測定する7地点)における日平均飽差※の実測値
(令和5年8月30日～31日分、単位 g/m^3)

地点名		村上	新潟	新津	柏崎	大潟	高田	相川
実測値	8/30 (水)	5.6	9.0 ●	6.9	6.5	6.3	6.2	9.6 ●
	8/31 (木)	9.1 ●	12.1 ●	9.8 ●	7.0	9.9 ●	10.0 ●	12.6 ●

数値下の記号について $9.0 g/m^3$ 以上：●

この値は、対象日の温度・湿度の平均値から日平均飽差を計算した実測値です。下記 URL ホームページにも掲載しています。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/nouen/r5inasaku.html>



令和5年度フェーン・異常高温緊急情報

「フェーン・異常高温緊急情報第4号」を发出了しました(8月29日)。

飽差情報の提供

県内アメダス7地点における日平均飽差の値を掲載しています。(平日毎日午前中に更新)
この値が大きく、こしいぶき、コシヒカリ、新之助について玄米品質低下が懸念される場合は、「異常高温・高飽差緊急情報」により早期収穫と丁寧な乾燥調整を呼びかけます。
収穫前の稲水分が低い時期に高い日平均飽差に遭遇すると、胴割粒発生による品質低下を招く場合があります。収穫作業計画の参考にしてください。

📎 「異常高温・高飽差緊急情報第1号」を发出了しました(670KB)
[報道発表ページはこちら](#)

令和5年8月30日(水曜日)
県内7地点の日平均飽差(立方メートルあたりグラム)

村上	新潟	新津	柏崎	大潟	高田	相川
5.6	9.0	6.9	6.5	6.3	6.2	9.6

📎 令和5年の日平均飽差一覧(8月30日まで)(PDFファイル/51KB)

日平均飽差の値の利用については、次のリンク先情報を参考にしてください。

「フェーン現象や乾燥による胴割粒の多発を抑制する早期収穫判断のめやす」
(農業総合研究所作物研究センターの研究成果情報)
[研究成果情報の詳細説明ページ](#) 📎 [令和4年度研究成果情報PDF](#)

📎 【参考資料】令和4年の日平均飽差(PDFファイル/64KB)

前日までの日平均飽差を掲載しています(平日毎日更新中)

※ 日平均飽差 (g/m^3) とは：
水稻成熟期における飽差の大きさは、胴割粒の発生しやすさを表します。籾水分が22%未満の時にコシヒカリでは $9 g/m^3$ 以上の日平均飽差に遭遇すると、胴割粒が増加する傾向があります。

科学的には、1立方メートルの空気中にと何グラムの水蒸気を含むことができるかを示す値のことで、空気の乾燥程度を表しています。この数値が大きいほど、空気中により多くの水分を含むことができ、濁きやすい状態であることを示します。

異常乾燥への対応(フェーンや乾燥による胴割粒の多発を抑制する早期収穫判断のめやす)については、ホームページ及び「水稻の生育状況と今後の管理対策(令和5年8月21日発行)」を参考にしてください。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/375083.pdf>

